



第3回 日本版NCAA作業部会

平成30年9月19日(水)

10:00～13:00

本日の作業部会の進め方 について

本日の作業部会の進め方(1/2)

本日の作業部会は、以下のスケジュールで進行する予定です

時間	時間配分	発表者		議事
10:00～	5分	スポーツ庁	事務局	本日の作業部会の進め方
10:05～	5分	テーマ15	木藤主査	日本版NCAAの組織整備(案)について
10:10～	10分	質疑応答・決議		
10:20～	10分	テーマ14	池田(敦)主査	スポンサープログラム及び賛助制度(案)について
10:30～	10分	質疑応答		
10:40～	5分× 7テーマ	テーマ2,3,4, 6,7,9,12	各主査	各テーマの進捗報告
11:15～	10分	質疑応答		
11:25～	10分	休憩		

本日の作業部会の進め方(2/2)

本日の作業部会は、以下のスケジュールで進行する予定です

時間	時間配分	発表者		議事
11:35～	10分	テーマ11	小林(至)主査	日本版NCAAとしての情報の取り扱いに関して(案) シェアードサービスの概要(案)
11:45～	10分	テーマ15	境田主査	個別データの管理・活用方針(案)
11:55～	10分	テーマ5	川原主査	事故情報の集約方針(案)
12:05～	20分	質疑応答・決議		
12:25～	15分	スポーツ庁	事務局	スポーツ庁からの報告及び質疑応答
12:40～	15分	質疑応答 ※部会員含む		
12:55～	5分	スポーツ庁	事務局	今後のスケジュールについて

議事(1)

日本版NCAAの組織整備(案)
について

スポーツ庁 参与
木藤 友規

テーマ

【事業・マーケティング】 組織整備

添付資料

資料2、資料3、資料4をご参照

議事(2) スポンサープログラム及び 賛助制度(案)

仙台大学 体育学部 教授
池田 敦司 氏

テーマ

【事業・マーケティング】 スポンサープログラム及び賛助制度の策定

報告内容

今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ①スポンサー・賛助会員などステークホルダーの体系整備
 - ・⑮作業部会と連携をし、会員体系とスポンサー体系の整理を進めており、本作業部会にて進捗報告を行う。
- ② 大学・学連会員の会費徴収の是非に関する検討
 - ・判断材料を収集、討議を進めている。

上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① 大学・学連会員の会費徴収の是非は継続検討
- ② スポンサー開拓に向けた戦略の策定。
想定協業サービスと業種のカテゴライズ

他テーマへの申し送り事項

- ① 各作業部会におかれましては、日本版NCAAと協業でサービス提供を行えるジャンル及び候補企業、スポンサー商品になり得るプログラム、を是非リストアップいただきたい。

次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① スポンサー・賛助会員などステークホルダーの体系の確定
- ② スポンサープログラム検討の進捗状況

テーマ

【事業・マーケティング】 スポンサープログラム及び賛助制度

添付資料

資料5をご参照

議事(3)

各主査からの進捗報告

学業充実 テーマ②

学修機会確保

全国大学体育連合 専務理事
小林 勝法 氏

テーマ

【学業充実】学修機会確保

報告内容

今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① 学連および大学対象アンケート調査項目の検討
加えて、今年度の試合日程も確認する。
- ② 大会・試合日程調整のフローの検討
- ③ 指導者セミナーの対象と実施方法、研修内容の検討
3つの階層に分け、全国、地区、各大学で実施する。

上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① アンケートには学業充実の他の部会と安全安心部会の項目も加える必要がある。
- ② おおよその概念図を作成した。アンケート結果を参考にして完成させたい。
- ③ 他の部会(①～④、⑥、⑧、⑫、⑯など)との調整が必要である。

他テーマへの申し送り事項

- ① 学連および大学対象アンケート調査の回答締め切りは10月中旬としている。
- ② 学連の代表を集めて、検討会を開催したい。(調査結果を踏まえて)
- ③ 試合日程調整や欠席配慮願ひなどのルール作りやフローについて、部会⑫SA支援からもご意見をいただきたい。
- ④ 指導者セミナーについて、部会①～④、⑧、⑫、⑯と調整する場を設けていただきたい。

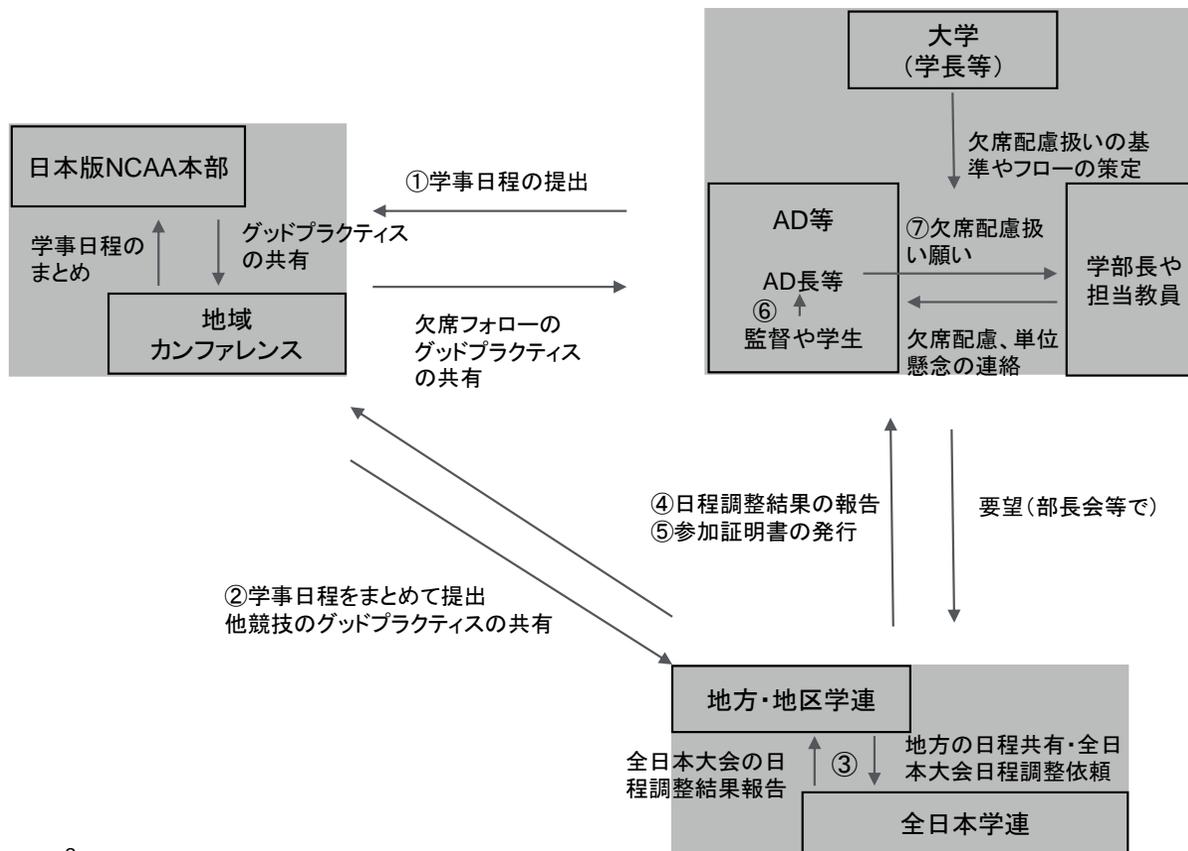
次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① 学連および大学対象アンケート結果の速報
- ② 試合日程調整フロー案
- ③ 指導者セミナー案(対象、内容、時間数、方法等)

テーマ 【学業充実】学修機会確保 A日程調整

添付資料

大会・試合日程調整制度案



テーマ

【学業充実】学修機会確保 B指導者セミナー

添付資料

指導者セミナー案

セミナー対象者

大学経営層

- 次年度、日本版NCAA総会を立ち上げ期と中間期等に開催し、大学に求める事や学修機会に対する理解を求めるシンポジウムを開催（経営層の中でも理事長や学長など決定権のある方を対象）（特筆すべき大学事例があれば発表してもらう）
- ⑩日本版NCAAの理念とビジョン

AD局、監督

- 地域カンファレンス(仮)毎に日本版NCAAが回り、学修機会確保のための要件や今後実施するルールのために備えて欲しいことを周知
- (①～④、⑥、⑧、⑫など)
- ⑩日本版NCAAの理念とビジョン
- ⑯コーチング哲学(グッドコーチに向けた7つの提言)
(将来的な指導者ライセンス制度の検討)

AD局スタッフ
コーチなど

- 大学内での周知徹底(①～④、⑥、⑧、⑫、⑯など)
- 3時間講習を義務づけ、実施報告(参加者数と率)を求める。

学業分野だけではないため、他の部会(テーマ⑥、⑧、⑫)と連携する必要がある。
⑥安全安心、⑧指導者制度、⑫大学SA支援・マーケティング・会計ルール
初年度の立ち上げ期までにどこまで準備しておくべきか？(*本テーマとしてはプログラム内容のみか)

テーマ

【学業充実】学修機会確保 B指導者セミナー

添付資料

新しい時代にふさわしいコーチングの確立に向けて
～ グッドコーチに向けた「7つの提言」～

「コーチング推進コンソーシアム」(以下、「コンソーシアム」という。)は、「スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議(タスクフォース)報告書」(平成 26 年7月)に基づき、オールジャパン体制でコーチング環境の改善・充実に向けた取組を推進するため、我が国を代表するスポーツ関係団体や大学、クラブ、アスリートなどを構成員として設置(平成 26 年6月)されたものです。

我が国においては、2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会を契機として、世界に誇れる我が国のコーチングを確立するとともに、2020 年以降も有形無形のレガシーとして、持続可能なスポーツ全国の実現に向けた取組が一層求められています。

そこで、コンソーシアムでは、全ての人々が自発性の下、年齢、性別、障害の有無に関わらず、それぞれの関心・適性等に応じてスポーツを実施する多様な現場でのコーチングを正しい方向へと導くため、「グッドコーチに向けた「7つの提言」」を取りまとめました。

さらには、グローバル化が進展する現代において、国内はもとより、海外でも活躍するコーチなど、国際社会の中でコーチングに関わる全ての人々にも参考としていただくことを期待しています。

今後、コンソーシアムの構成団体を通じて、7つの提言を広く関係者に呼びかけ、コーチング環境の改善・充実を図っていくこととしています。

平成 27 年 3 月 13 日
文部科学省コーチング推進コンソーシアム

グッドコーチに向けた「7つの提言」

スポーツに関わる全ての人々が、以下の「7つの提言」を参考にし、新しい時代にふさわしい、正しいコーチングを実現することを期待します。

1 暴力やあらゆるハラスメントの根絶に全力を尽くしましょう。

暴力やハラスメントを伴うコーチングからは、グッドプレーヤーは決して生まれたいことを強く希望するとともに、コーチング技術やスポーツ観・知見に立脚したスポーツ指導を実現することを実現し、スポーツの現場における暴力やあらゆるハラスメントの根絶に全力を尽くすことが必要です。

2 自らの「人間力」を高めましょう。

コーチングが社会的認知であることを常に意識し、自己をコントロールしながらプレーヤーの成長をサポートするため、グッドコーチに必要なリーダーシップ、コミュニケーションスキル、積極的思考力、継続意欲、忍耐力、真の心等の「人間力」を高めることが必要です。

3 常に学び続けましょう。

自らの経験だけでなく、コーチングから教訓し、国内外のスポーツを取り巻く環境に対応した効果的なコーチングを実現するため、最新の指導内容や指導法の習得に加え、競技理論的な知識・技能や、例えば、国際コーチングエグゼクティブ委員会(Coach)等におけるコーチングの国際的な情報収集し、常に学び続けることが必要です。

4 プレーヤーのことを最優先に考えましょう。

プレーヤーの人格及びニーズや資質を尊重し、相互の信頼関係を築き、特に効果的なコミュニケーションにより、スポーツの価値や目的、トレーニング効果等についての共通認識の下、公平なコーチングを行うことが必要です。

5 自立したプレーヤーを育てましょう。

スポーツは、プレーヤーが年齢、性別、障害の有無に関わらず、その適性及び健康状態に応じて、安全に自主的かつ自発的に実践するものであることを意識し、自ら考え、自ら工夫する、自立したプレーヤーとして育成することが必要です。

6 社会に関われたコーチングに努めましょう。

コーチング環境の改善・充実するため、プレーヤーを取り巻くコーチ、家庭、マネージャー、トレーナー、医師、教員等の様々な関係者(アンダーグラウンド)と連携を構築し、社会に関われたコーチングを行うことが必要です。

7 コーチの社会的信頼を高めましょう。

新しい時代にもふさわしい、正しいコーチングを実現することを通して、スポーツそのものの価値やインテグリティ(真実性)を高めるとともに、スポーツを通じて社会に貢献する人材を輩出して育成・輩出することにより、コーチの社会的な信頼を高めることが必要です。

平成 27 年 3 月 13 日
文部科学省コーチング推進コンソーシアム

学業充実 テーマ③
成績管理・対策、さらなる動機付け

早稲田大学 スポーツ科学学術院
友添 秀則 氏

テーマ

【学業充実】 成績管理・対策、さらなる動機付け

報告内容

今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① 学業基準の制度設計の詳細の検討。具体的には、各年次に求められる必要最低単位基準の策定方法、基準を下回った場合の措置、指導内容とその方法、GPAの評価システムなどを勘案する重要性の認識の共有。
- ② 表彰制度についての制度設計の詳細の検討。具体的には、学業(GPA、取得単位数)と競技成績を勘案しての表彰、競技成績を主体とした表彰、スポンサーシップを視野に入れての奨学金と連動した表彰などのあり方のメンバー間の認識の共有。
- ③ 学連および大学対象アンケート調査項目の検討(成績管理と表彰制度該当部分のみ)

上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① 部員の個人情報である成績情報の収集権限とその管理法。
- ② 日本版NCAAからの表彰、アワードの具体(例:長官賞)、カンファレンスからの表彰、NFとの関係、大学・学連等に既存表彰システムがある場合の関係をどのようにすべきかの課題の整理の必要性。

他テーマへの申し送り事項

- ① 【学業充実】(入学前からの動機付け)部会 大学で学業基準単位が設定されていることを受験生にどのように周知するかを検討の必要有。
- ② 【事業・マーケ】(大会レギュレーションの整備) 奨学金・表彰制度とスポンサーのあり方の検討の要。

次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① 学業基準の制度設計図のラフスケッチの報告。
- ② 表彰制度についての制度設計図のラフスケッチの報告。
- ③ 成績管理と表彰制度該当部分のアンケート結果速報。

テーマ

【学業充実】 成績管理・対策、さらなる動機付け

添付資料

学業基準

表彰制度

日本薬科大学
縣 委員

表彰制度設計詳細
評価者、評価時期、対象基準、
評価方法

関東学院大学
松本 委員

表彰制度設計詳細
評価者、評価時期、対象基準、
評価方法

山梨学院大学
津金 委員

・大学における基準案の策定
・4年/5年の2パターンの策定
・取得単位数、GPAの評価シ
ステムの取扱い方策

青山学院大学
長谷川 委員

・大学内のプロセス
・既に基準がある場合の対
処
・情報規程と対処方法

早稲田大学
友添

- ✓ 取りまとめ
- ✓ 他テーマ主査との調整
- ✓ 大学及び学連回り

学業充実 テーマ④
キャリア支援

大阪体育大学 体育学部 教授
藤本 淳也 氏

テーマ

【学業充実】 キャリア支援

報告内容

今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① キャリア支援に関して既存団体がまとめた資料の共有を行った。
- ② 「全国体育スポーツ系大学就職担当者連絡協議会(29大学)」のアンケート集計結果を共有した。
- ③ 現時点での「成果物の目次(案)」とその「論点」について、WGメンバーからの意見交換(メール)を行い、その後、スカイプ会議にて議論した。
- ④ 学業充実の4テーマ主査によるスカイプ会議を行い、「各テーマでの議論内容と進行状況」「学業共通で取り組むべき項目(特にアンケート項目)」について報告、意見交換、議論を行った。

上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① 学生所属が「体育・スポーツ系学部」と「その他の学部」では、区別して検討すべき。
- ② 学生アスリートと一般学生の比率など、状況が大学によって異なることを考慮しながら検討すべき。
- ③ 既に学生アスリートキャリア支援として機能している民間企業とのタイアップが必要。
- ④ 就活やインターンシップの活動への監督・コーチへの理解促進の仕組みの検討が必要。

他テーマへの申し送り事項

- ① 今後も、「入学前からの動機づけ」「学業基準の設定・さらなる動機付け」「指導者セミナー」の部会と情報共有が必要

次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① この時点で確認された課題
- ② 「成果物の目次(案)」の短期的・長期的目標と具体策について
- ③ 次回会議へ向けての議論のポイント

安全安心・医科学 テーマ⑥ 共通ルールの設定

全日本学生柔道連盟 理事
三宅 仁 氏

テーマ

【安全安心・医科学】 共通ルールの設定

報告内容

今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① 安全・安心に関するガイドライン
素案の作成に着手。また、作成担当範囲等の役割分担の明確化
- ② アンケートの作成
ガイドラインに関する学連向けアンケート調査項目の決定

上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① 日本版NCAAにおける安全・安心ガイドラインの「位置づけ」
既存の指導者ライセンス等と重複しないための整理が必要

他テーマへの申し送り事項

- ① 保険
ラグビーや柔道で実施している見舞金制度(学生・指導者)に関する情報共有(テーマ5)
- ② 事故データ集約
予防対策のための事故データ収集に関する方針の確認(テーマ5)

次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① 安全・安心に関するガイドライン
素案作成の進捗状況及び記載予定内容の報告

安全安心・医科学 テーマ⑦
ガバナンスの体制構築、ハラスメントや
暴力等に関する相談・対応体制の構築

日本安全教育学会 理事
戸田 芳雄 氏

テーマ

【安全安心・医科学】ガバナンス体制の構築、ハラスメントや暴力等に関する相談・対応体制の構築

報告内容

今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ①スポーツ機関、大学、NF・学連の相談窓口の対象、事案、実績等について、ヒアリング調査等を行ない、日本版NCAAにおける相談窓口の基本となるコンセプトについて検討した。
- ②大学、NF、学連等コンプライアンスに関するガイドライン・規程等のヒアリング調査等を行ない、ガイドライン作成の基本となる指針のコンセプトについて検討した。

上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① 調査の結果、スポーツ機関、大学、NF・学連で、大学生の運動部活動に特化した窓口を設置している例はなく、運動部活動に関する相談実績も少ない。問題の解決に機能しているかどうか懸念が残る。
- ② 問題を具体的に解決するのは各大学・学連等であり、日本版NCAAは情報提供、指導及び助言を行なう必要がある、その役割と各大学等との連携など機能する運用方法を検討する必要がある。
- ③ 各大学等がガイドラインを作成する際の指針を示すことが、日本版NCAAの役割ではないか。

他テーマへの申し送り事項

- ①NF・学連等が既の実施している研修と重複しないようにするため、コンプライアンスの遵守、ハラスメントの防止、各種目に共通する疾病や安全確保などについての研修方針をテーマ8と共同して検討する。

次回の作業部会における報告事項(予定)

- ①日本版NCAAの相談窓口の設置計画案
- ②各大学・学連でのコンプライアンス等に関するガイドライン作成の指針素案

事業・マーケティング テーマ⑨ 大会レギュレーションの整備

スポーツ庁 参与

池田 純

テーマ

【事業・マーケティング】 大会レギュレーションの整備

報告内容

今回の作業部会までに作業・検討した内容

日本版NCAA(仮称)としての表彰制度のあり方(案)について検討した

- スポーツ内外の団体における既存の表彰制度事例に関する調査を実施した
→机上配布資料参照
- 日本版NCAA(仮称)の表彰制度(案)について初期的検討を実施した
 - ✓ 設立理念から導き出される表彰項目 →添付資料1/4、2/4参照
 - ✓ 作業部会の15テーマに関連して考え得る表彰項目 →添付資料3/4、4/4参照

上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

表彰制度を検討するに当たっては、その前提となる理念が固まっていることが必要

他テーマへの申し送り事項

各テーマでの検討内容に関連して設置すべき表彰制度案について意見を頂きたい

次回の作業部会における報告事項(予定)

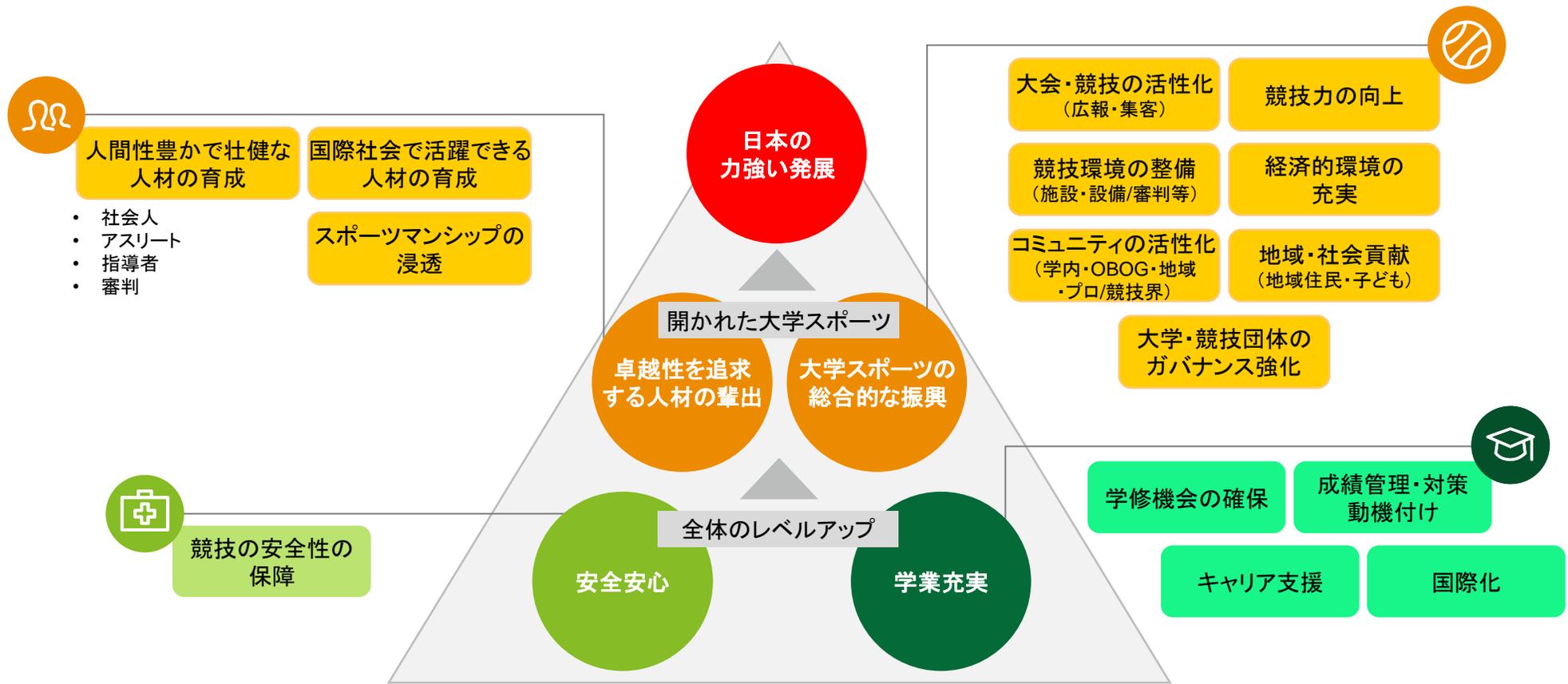
- ① 表彰制度に関する具体案の提示
- ② 競技横断的の大学対抗戦(既存の大会を前提としたポイント制)に関する具体案の提示

添付資料
(1/4)

表彰制度(案)の検討①－設立理念の整理 (ver1.1)

定款目的
(最新案)

この法人は、**大学スポーツを総合的に振興**し、学生の誰もが**学業を充実**させながら**安全に**競技スポーツを実践するための基盤的環境を整備するとともに、地域に根差す大学スポーツの多様な価値を高め、**我が国の力強い発展**と**卓越性を追求する人材の輩出**に寄与することを目的とする。



日本版NCAA(仮称)の理念の実現を後押しする表彰制度を設計する

添付資料
(2/4)

表彰制度(案)の検討②－理念から導き出される表彰項目(ver1.1)

日本版NCAAの理念に紐づく表彰項目(例示)

#	分類	表彰対象項目	対象者	理念との適合性					スポンサー候補
				安全安心	学業充実	人材輩出	大学スポーツ振興	...	
1	安全性	安全対策	大学・競技団体	○					...
2	安全性	フェアプレー	学生個人	○					...
3	学修機会	文武両道の推進(モデル学生アスリート)	大学・個人		○				...
4	国際化	国際的な活躍	学生・OBOG		○	○			...
5	人材育成	優秀指導者(競技面・学業面・安全面)	指導者	○	○		○		...
6	活性化	大会・競技プロモーション(広報・集客)	競技団体 地域ブロック				○		...
7	活性化・競技力	大学対抗戦(ポイント制)年間成績	大学				○		...
8	活性化・競技力	優秀選手(競技面)	学生個人				○		...
9	経済的環境	大学スポーツ支援(協賛・寄附等)	企業・OBOG				○		...
10	経済的環境	スポンサーとの共同取組	大学(AD局)				○		...
11	競技環境	学内環境整備:施設・設備(グラウンド・スタアリ等)	大学(AD局)	○			○		...
12	コミュニティ	ブランディング(ユニフォーム・ロゴ・マスコット)	大学(AD局)				○		...
13	コミュニティ	学生・OGOG・地域向け情報発信(HP・SNS等)	大学(AD局)				○		...
14	地域・社会貢献	地域貢献・活性化取組	大学(AD局) 地域ブロック			○	○		...
15	ガバナンス	学内環境整備:組織・人材(AD局設置・SA配置)	大学(AD局)	○	○	○	○		...
16

添付資料
(3/4)

表彰制度(案)の検討③ - 15テーマに関連する表彰項目(ver1.1)

15テーマに関連する表彰項目(例示) <学業充実/安全安心・医科学関連>

#	テーマ	表彰対象項目	表彰案	内容	対象者	スポンサー
①	入学前からの動機付け	入学前からの取組促進	先進的取組事例に対する表彰	入学前からの動機付けに関する大学による先進的取組事例を表彰	大学	リクルート・教育
②	学修機会の確保	授業への出席率向上/出席できない場合の対応	先進的取組事例に対する表彰	学修機会の確保に関する大学による先進的取組事例を表彰	大学	...
③	成績管理・対策、さらなる動機付け	文武両道の推進	先進的取組事例に対する表彰/モデル学生アスリート	成績管理・対策に関する大学による先進的取組事例を表彰/文武両道を実践する模範となる学生アスリートを表彰	大学・学生個人	...
④	キャリア支援	キャリアの選択肢の提示	モデルOBOG	社会で現役学生の模範となるようなキャリアを形成しているOBOGを表彰	OBOG	...
⑤	事故情報の集約化	保険加入促進	保険加入率	学生アスリートの保険加入率の最も高い大学を表彰	大学	保険
⑥	共通ルールの設定	安全対策推進	先進的取組事例に対する表彰	安全対策に関する大学/競技団体による先進的取組事例を表彰	大学・競技団体	...
	〃	学生アスリートの意識向上	フェアプレー賞/スポーツマンシップ賞	模範となるプレーをみせたチーム/学生アスリートを表彰	学生個人	...
⑦	ガバナンスの体制構築、ハラスメントや暴力等に関する相談・対応体制の構築	コンプライアンス強化	先進的取組事例に対する表彰	コンプライアンス強化に関する大学/競技団体による先進的取組事例を表彰	大学・競技団体	...
⑧	指導者研修	指導者育成・意識向上	先進的取組事例に対する表彰	指導者意識向上プログラム等に関する大学による先進的取組事例を表彰	大学	...

添付資料
(4/4)

表彰制度(案)の検討③ - 15テーマに関連する表彰項目(ver1.1)

15テーマに関連する表彰項目(例示) <事業・マーケティング関連>

#	テーマ	表彰対象項目	表彰案	内容	対象者	スポンサー
⑨	大会レギュレーション・表彰制度整備	大学スポーツ・大会活性化	大学対抗戦成績	年間総合ポイント上位の大学を表彰	大学	全般
	"	競技力向上	優秀選手賞	年間通じて優れた競技成績を残した学生アスリートを表彰	学生個人	...
	"	指導力向上	優秀指導者賞	年間通じて優れた指導成果を残した指導者を表彰	指導者	...
	"	縁の下の力持ち	マネージャー表彰	クラブ・競技のサポートにおいて優れた取組事例を残したマネージャーを表彰	マネージャー	...
	"	応援文化	ベストサポーター賞	大学を挙げて加盟競技の大会への応援が盛んであった大学を表彰	大学	...
	"	大会プロモーション	競技団体取組	競技普及のための競技団体による大会プロモーションに関する先進的取組事例を表彰	競技団体	...
⑩	個別データ管理・活用	...				
⑪	シェアードサービス	...				
⑫	大学SA支援、マーケ・会計ガイドライン	学内環境整備:ソフト(AD局設置・SA配置)	先進的取組事例に対する表彰	学内統括部局の設置やSA配置に関する大学による先進的取組事例を表彰	大学(AD局)	...
	"	学内環境整備:ハード(グラウンド・スタアリ等)	先進的取組事例に対する表彰	大学スポーツの活性化のための施設整備に関する大学による先進的取組事例を表彰	大学(AD局)	...
	"	スポンサーとの連携	先進的取組事例に対する表彰	スポンサー獲得、スポンサーとの連携に関する大学による先進的取組事例を表彰	大学(AD局)	...
⑬	広報戦略の策定・展開	情報発信:学内向け	先進的取組事例に対する表彰	大学スポーツに関する学内向け情報発信に関する大学による先進的取組事例を表彰	大学(AD局)	...
	"	情報発信:学外向け(OBOG、地域住民・企業等)	先進的取組事例に対する表彰	大学スポーツに関する学外向け情報発信に関する大学による先進的取組事例を表彰	大学(AD局)	...
⑭	スポンサープログラムの策定、賛助依頼	...				
⑮	組織整備	...				

事業・マーケティング テーマ⑫ 大学SA支援、マーケティング・会計 ルールに関するガイドライン整備

日本体育大学 アスレティックデパートメント長補佐
佐野 昌行 氏

テーマ

【事業・マーケティング】 大学SA支援、マーケティング・会計ルールに関するガイドライン整備

報告内容

今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① 一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会(体大協)が、スポーツ関連コースを有する加盟47校に対してAD局設置、SA配置に関するアンケートを実施中。結果の報告に向けた調整を行っている。報告を受け次第、結果を参照し、手引書の作成に反映させる
- ② 同様の調査をKCAA加盟大学に対して実施していただいた
- ③ クラブの会計決算書類のひな型について、先行大学の事例を調査し、サンプルを入手した
- ④ 寄付やスポンサー等の受理については会計士等の専門家と相談しながら進めていくこととした
- ⑤ 日本版NCAAへの加盟要件となりうる事項について検討した

上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① 手引書を活用し、各大学におけるAD局の設置状況について点検・支援していく体制が求められるのではないか。整備された大学に対しインセンティブを与えることも考えられるのでは
- ② NCAAもしくは地域ブロック部会と各大学ADとの関係について検討・整理する必要があるのではないか

他テーマへの申し送り事項

- ① AD局が担うべき役割や機能について、「安全の確保」、「学業支援」、「会計のチェック」など広範な項目を含む手引書・事例集を作成する計画です(次ページ参照)。各項目の詳細としてどのような内容が考えられるか、担当テーマの方々から情報提供いただけますと幸いです。

次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① AD局設置・SA配置の手引書作成に向けた取り組みの報告
→体大協によるアンケート結果を反映させた手引書の目次の提案
→AD局設置(組織図など)・SA配置(人数や職域など)の先行事例大学へのヒアリングに関する進捗状況の報告

テーマ

【事業・マーケティング】 大学SA支援、マーケティング・会計ルールに関するガイドライン整備

添付資料

大学SA支援、マーケティング・会計ルールに関するガイドライン整備

《内 容》

目標や方向性の提示、事例の紹介等によって、大学におけるスポーツ部局の設置およびスポーツ・アドミニストレーターの配置を後押しする

《策定事項(案)》

○スポーツ部局の設置に関する指標

- ・スポーツ部局に求められる役割
- ・アンケートにみる各大学スポーツ部局の設置形態、教職員数
- ・(もしあれば)日本版NCAA加盟に際して必ず整えなければならない条件

○大学スポーツ・アドミニストレーターの配置に関する指標

- ・大学スポーツ・アドミニストレーターに求められる役割、資質・能力・知識等
- ・アンケートにみる各大学スポーツ・アドミニストレーターの配置人数、職域
- ・大学スポーツアドミニストレーターにおける職域の設定の仕方によるメリットとデメリット

○マーケティングに関する指標

- ・寄附・スポンサー等外部資金の受け方の紹介、メリットとデメリット

○会計ルールに関する指標

- ・会計ルール統一・会計監査を実施している大学の事例紹介、課題等

議事(4)

日本版NCAAとしての情報の
取り扱いに関して(案)

シェアードサービスの概要(案)

江戸川大学 社会学部経営社会学科 教授
小林 至 氏

テーマ

【事業・マーケティング】 シェアードサービスの提供

報告内容

今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① シェアードサービスは、関係者向けのサービス、対外向けのサービスの両面があることを確認。それぞれのターゲットに対して伝わりやすい構造にすべく要素を整理する必要性の確認(別紙、NCAA公式サイトを分析)
- ② シェアードサービスのプラットフォームを構築していく上で、提供可能なサービスについて
- ③ 初期の核となる映像配信事業の構造について(ライブ映像、ドキュメンタリー映像、インタビュー映像ほか)
- ④ 記事配信スキームについて(RSSフィードの活用)
- ⑤ 「事業・マーケティング」の他のテーマとシェアードサービスの連携の必要性についての確認
- ⑥ 上記、映像配信事業を行う上で、既存の各学連の映像配信に関する取り組みの調査(別紙)

上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① 具体的な計画に落とし込むのは、事業者の決定後となること
- ② 映像配信事業者との綿密な計画づくり 各学連との正式な映像配信に関する調整(権利処理の方法について: 配信料購入型、共同事業型、配信協力型など)が必要であることを確認
- ③ 映像配信を行うコストの算出と捻出についての考え方の整理が必要

他テーマへの申し送り事項

- ① 「事業・マーケティング」に限らず、対内、対外ともに、多くのサービスが、シェアード・サービス(サイバー空間)を介して行うことが出来ることと、利用者にとって、サイバー空間を活用することで、利便性の向上および費用削減に寄与することが出来ることについて、確認をしたい。

次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① 映像配信・HP制作の開設準備を委託する業者について
- ② シェアードサービスの核となる映像配信事業に関するサービスの概要とメリットについて報告する。
- ③ 可能であれば、どのような競技、大会の映像配信をしていくかの予定についても発表する。
- ④ サイト運営および配信に伴うコストの算出と、その費用の捻出についての考え方の整理

日本版NCAA構想におけるシェアードサービス

【日本版NCAA設立にあたり、シェアードサービスに求められるもの】

カレッジアイデンティティの醸成、コミュニティ活性化

※7/24準備委員会で発表済み

初期段階での核となる施策

【映像配信事業】

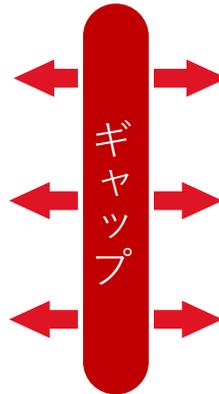
大学スポーツの透明性を担保し、フェアプレーの精神をさらに根付かせる

理想

多くの人に見てしてもらいたい

初期の費用はあまりかけたくない

少しでも多くの映像を配信したい



現実

ゼロから立ち上げる新サイトで、どのくらいの人が見てくれるかわからない

サーバーを保有するだけでも大きなコストがかかる

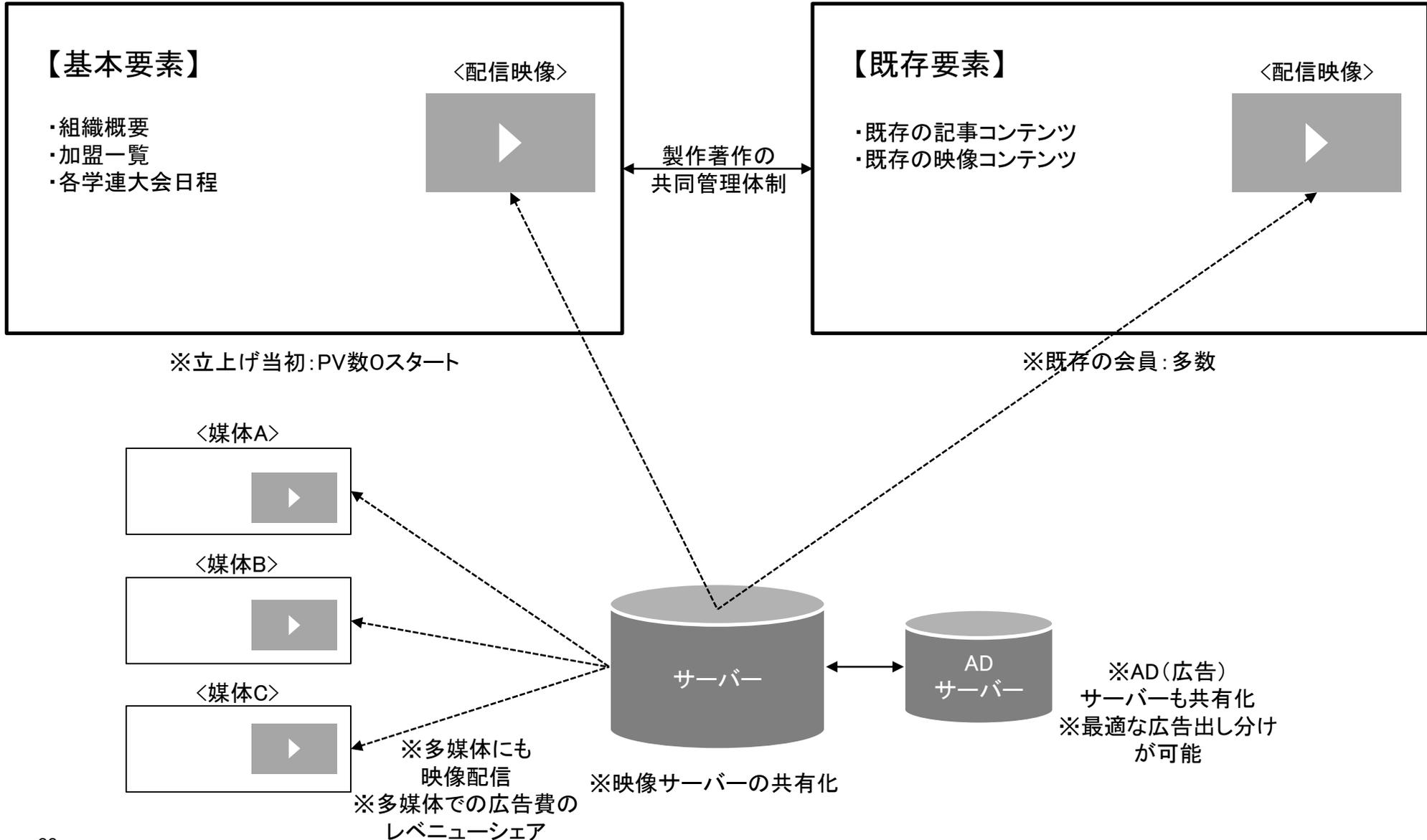
製作ノウハウ・映像管理ノウハウがない

映像配信事業者との協業により日本版NCAA設立までのサービス立ち上げを目指す

映像配信プラットフォーム構想案

<日本版NCAA>

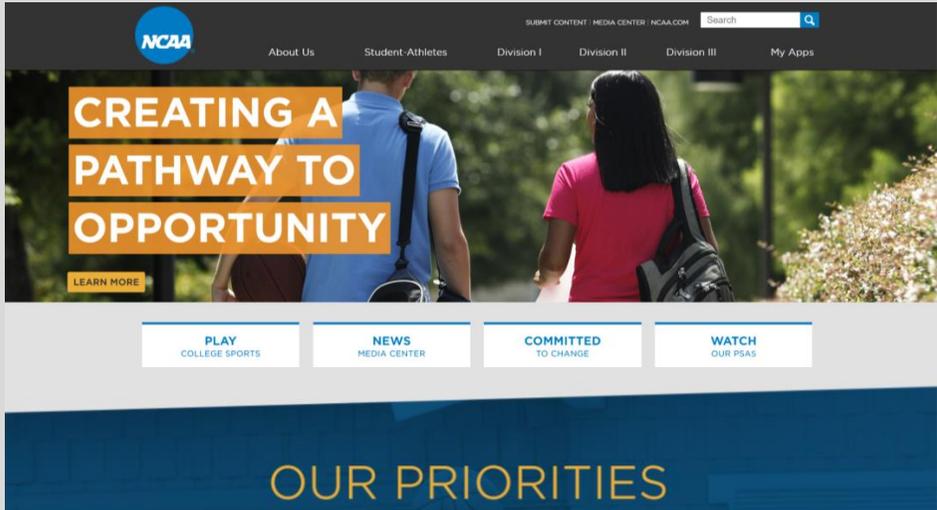
<映像配信事業者>



米国のNCAA公式サイトを分析

コーポレートサイト

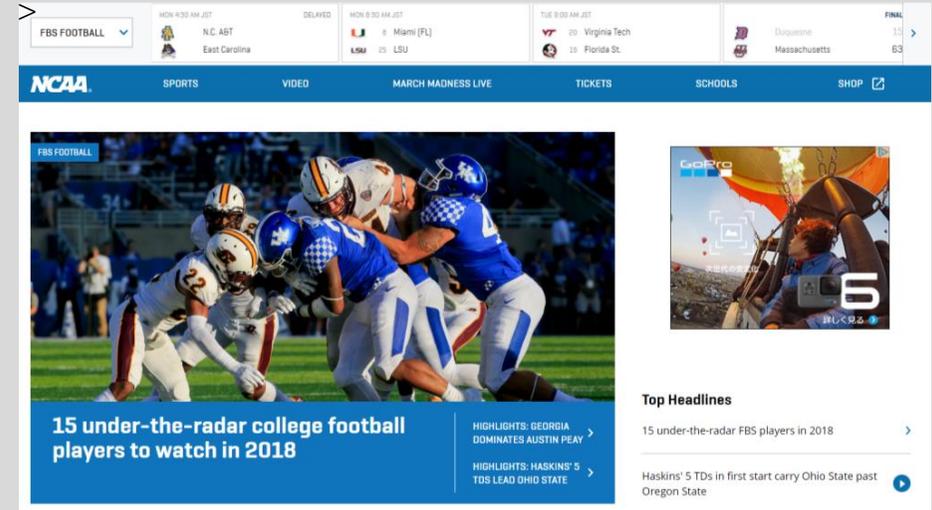
< <http://www.ncaa.org/> >



関係者向け情報発信

サービスサイト

< <https://www.ncaa.com/> >



一般ファン向け情報発信

それぞれの**サイトが役割を分担**することで、
中身を整理しやすく、それぞれのターゲットに対して伝わりやすい構造

米国のNCAA公式サイト要素分析

コーポレートサイト、サービスサイト、それぞれの要素を抽出

<http://www.ncaa.org/>



<https://www.ncaa.com/>



要素 ⑱ チケット購入

要素 ⑳ TOPニュース

要素 ㉑ ニュース速報

要素 ㉒ フットボール情報(主要競技情報)

要素 ㉓ フットボール映像

映像配信状況に合わせた映像制作配信

現在の映像制作配信状況

No.	競技	組織概要	映像配信
		名称	
1	野球	全日本大学野球連盟	東京六大学はライブ配信 (SPBL)
2	庭球	全日本学生テニス連盟	-
3	漕艇	日本ボート協会	-
4	剣道	全日本学生剣道連盟	-
5	柔道	全日本学生柔道連盟	一部決勝だけ YouTube
6	弓道	全日本学生弓道連盟	-
7	水泳	日本水泳連盟	日本水泳連盟公式チャンネルでライブ配信 (FRESH)
8	陸上	日本学生陸上競技連合	駅伝 (箱根、女子: NTV、伊勢: EX、出雲: CX)
9	相撲	日本相撲連盟	-
10	ラグビー	日本ラグビーフットボール協会	JSPORTS放送/NHK (決勝、準決勝)
11	山岳	日本山岳会	-
12	スキー	全日本学生スキー連盟	ユニバーシアード Youtube動画あり
13	スケート	日本学生氷上競技連盟	-
14	バスケット	全日本大学バスケットボール連盟	インカレハイライト 動画あり
15	サッカー	全日本大学サッカー連盟	インカレ決勝をジェイネット でライブ配信
16	馬術	全日本学生馬術連盟	-
17	卓球	日本学生卓球連盟	-
18	ボクシング	日本ボクシング連盟	-
19	体操	全日本学生体操連盟	-
20	空手	全日本学生空手連盟	世界大学空手道選手権大会ライブ中継 (毎日)
21	バレーボール	全日本大学バレーボール連盟	インカレライブ配信 (DAZN、JSPORTS、FRESH)
22	レスリング	全日本学生レスリング連盟	インカレライブ配信 (FRESH)
23	アメフト	関東学生アメリカンフットボール連盟	関東 (有明放送局)、関西 (SPBL)
24	ソフトボール	全日本大学ソフトボール連盟	-
25	バドミントン	全日本学生バドミントン連盟	-
26	アーチェリー	全日本学生アーチェリー連盟	インカレ決勝 (Youtube)
27	ラクロス	日本ラクロス協会	早慶戦ライブ配信 (Fresh)
28	ウェイトリフティング	日本ウェイトリフティング協会	-
29	ゴルフ	日本ゴルフ協会	-
30	ホッケー	日本学生ホッケー連盟	-
31	フェンシング	全日本学生フェンシング連合	-
32	カヌー	全日本学生カヌー連盟	公式Facebook頁にて映像あり

※一部の学連のみ抜粋。

※上記表は、HP確認のみ。今後、各学連に確認調整していきます。

既存配信なし

ゼロから映像制作配信を開始

カメラ機材から配信機材に至る各種機材を調達。会場側と調整して映像制作配信体制をゼロから整える。また、カメラマン、ディレクターなどの人材も手配していくため、ある程度コスト負担は高くなる。

既存配信あり

既存の映像制作体制と協業

既にある映像制作体制と連携して、ネットでのライブ配信環境を整える。場合によっては、製作費を一部追加して映像クオリティも高めることも可能だが、相対的に、コスト負担を抑えることができる。

個別データの管理・ 活用方針(案)

東京大学 理事
境田 正樹 氏

テーマ

【事業・マーケティング】 個別データの管理・活用

報告内容

今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① リサーチ・コーディネーションセンターの設置
- ② アスリート・データバンクセンターの設置
- ③ サポートーズ・データバンクセンターの設置
- ④ 大学AD内の研究支援センターの設置

上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① リサーチ・コーディネーションセンターの役割
- ② アスリート・データバンクセンターの役割
- ③ サポートーズ・データバンクセンターの役割
- ④ 大学AD内の研究支援センターの役割

他テーマへの申し送り事項

- ① 「安全・安心・医科学分野 テーマ⑥安全に関するガイドライン」
学生アスリートからスポーツ障害情報、バイタルデータ、体力測定データ等を取得し、研究を実施するための体制構築
- ② 「事業・マーケティング テーマ⑪「シェアードサービスの提供」、テーマ⑭「スポンサープログラムの策定、賛助依頼」
企業との新規商品、新規サービスの開発に向けての連携等

次回の作業部会における報告事項（予定）

- ① リサーチ・コーディネーションセンターの設置
- ② アスリート・データバンクセンターの設置
- ③ サポートーズ・データバンクセンターの設置
- ④ 大学AD内の研究支援センターの設置

「個別データ管理・活用」WGからの提案

日本の大学には、スポーツに関する様々な研究の知の蓄積があり、また、現在も優れた多くの研究が行われている。

スポーツ健康医学、スポーツ工学(ロボティクス、VR、AR、IoT、ウェアラブル等)、スポーツ薬理学、スポーツマネジメント学、スポーツ情報学、運動生理学・栄養学、スポーツ人文・社会学、トレーニング科学、リハビリテーション学等



日本版NCAAでは、参加大学が連携・協力することにより、大学におけるスポーツに関する研究の成果を、大学スポーツ界に広く還元することを目指す。



「個別データ管理・活用」WGからの提案

- (1) 日本版NCAAの組織内に、「リサーチ・コーディネートセンター」を設置する。
- (2) 「リサーチ・コーディネートセンター」の中に、「アスリート統合データベース」と「サポーターズ・データベース」を設置する。
- (3) 参加大学のアスレティック・デパートメント(AD)の中に、「研究支援センター」を設置する。

「個別データ管理・活用」WGからの提案

(1) リサーチ・コーディネーションセンター (RCC)の役割

- ① 研究計画の策定
- ② 研究協力大学の募集
- ③ 企業との連携・協力、外部資金の獲得
- ④ 参加大学への資金の配分

(2) 参加大学の研究支援センターの役割

- ① 各大学におけるスポーツに関する研究情報の収集
- ② 研究計画の取纏め及びRCCへの提案、RCCとの協議等
- ③ 各大学における研究実施体制の構築及び実行
- ④ 研究成果の運動部学生アスリートへの還元

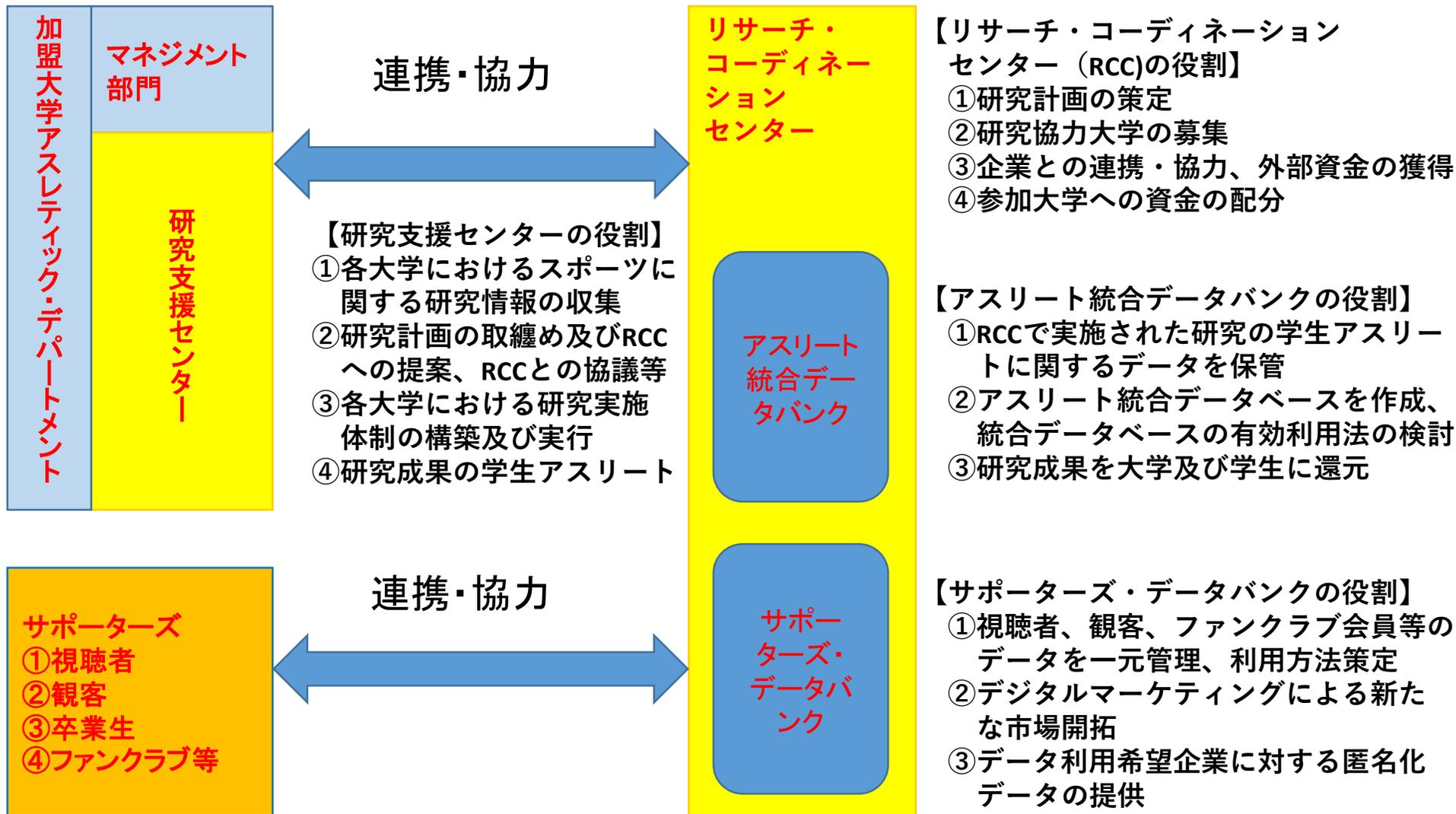
(3) アスリート・データバンクの役割

- ① RCCで実施された研究のアスリートに関するデータを保管
- ② アスリート統合データベースを作成、統合データベースの有効利用の検討
- ③ 研究成果を大学及び学生アスリートに還元

(4) サポーターズ・データバンクの役割

- ① 視聴者、観客、ファンクラブなどのデータを一元管理、利用方法策定
- ② デジタルマーケティングによる新たな市場開拓
- ③ データ利用希望企業に対する匿名化データの提供

日本版NCAA構想における個別データの管理・活用(案)



事故情報の集約方針(案)

日本臨床スポーツ医学会 理事長
川原 貴 氏

テーマ

【安全安心・医科学】 事故情報の集約化

報告内容

今回の作業部会までに作業・検討した内容

① 事故情報の集約

基本的に保険のデータを活用することとし、保険から得られる情報を確認した。今後、個別事例の情報を収集すべき重大事故の範囲を検討する。学連が事故情報を把握しているかを調査する。

② 保険

大学運動部の保険加入状況を確認した。今後、学連の保険加入状況を調査する。加入が勧められ保険を大学、学連、チーム、指導者別に整理する。加入促進策を検討する。また、現行の保険でカバーできていない事項があれば、新たな保険の可能性を検討する。

上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① 事故情報の集約： 収集した事故情報を集計・分析して大学、学連にフィードバックする必要がある。個別の事故予防のためには大学、競技を越えた情報を収集する調査研究が必要であり、日本版NCAAが調査研究をコーディネートする必要がある。

他テーマへの申し送り事項

- ① 安全安心のガイドラインに大学、学連が事故情報を把握すべきこと、適切な保険に加入すべきことを盛り込む

次回の作業部会における報告事項（予定）

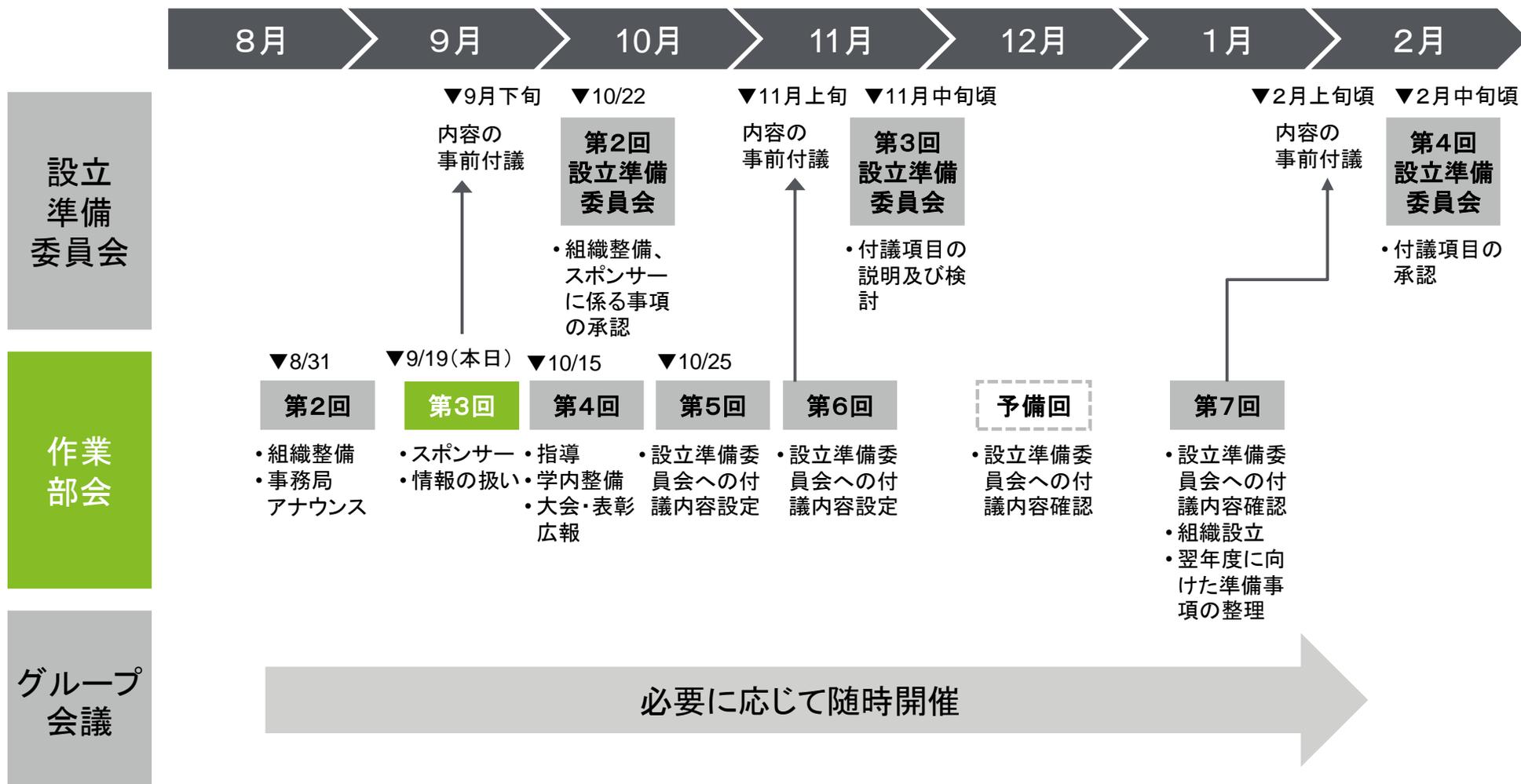
- ① 事故情報の集約： 個別事例の情報を収集すべき重大事故の範囲
② 保険： 加入が勧められる大学、学連、チーム、指導者別の保険

議事(5)

今後のスケジュールについて

日本版NCAA設立準備委員会年間スケジュール(予定)

日本版NCAA設立準備委員会は計4回開催、作業部会は計7～8回の開催を予定しています。



今後の作業部会のアジェンダ(予定)

今後の作業部会は以下のアジェンダで進めていく予定です。第2回設立準備委員会に付議する内容が多くなると想定されるため、10月は作業部会を2回開催する予定です

	第3回(9月)	第4回(10月①)	第5回(10月②)	第6回(11月)	予備回(12月)	第7回(1月)
全体討議の内容	組織整備 15	スポンサー 10	大会・表彰・広報 15	付議内容確認 テーマ1,2,3,4, 6,7,8,9,12,13 300	付議内容確認 (臨時の場合)	組織設計の 最終確認
	スポンサー テーマ14 20	情報の扱い 40 大会・表彰・広報 テーマ9,13 30	学内整備 50 指導 30			付議内容確認
	情報の扱い テーマ5,10,11 50	学内整備 テーマ2,3,6,7,12 70 指導 テーマ1,4,8 40	付議内容確認 テーマ5,10, 11,14,15 200			組織設立の 進捗及び今後の 進め方 60
報告・決定	メインアジェンダ以外の 各テーマ進捗報告 ~75			大学意思決定 の具合確認 30		成果物の 進捗確認
時間	約3時間	約3時間30分	約5時間 ※2部制	約6時間30分 ※2部制		約3時間

<凡例>

前回議題

メインアジェンダ

min

第4回作業部会のご案内(1/2)

第4回作業部会では、「大会・表彰・広報」「学内整備」「指導者」の3つのトピックをメインアジェンダとして議論する予定です

#	時間配分	累計時間	発表者		議題
	5分	—	スポーツ庁	事務局	本日の作業部会の進め方
前回の議題	5分	10分	テーマ14	池田(敦)先生	スポンサープログラム及び賛助制度(案)
	10分	20分	質疑応答・決議		
	5分	25分	テーマ11	小林(至)先生	日本版NCAAとしての情報の取り扱いに関して(案) シェアードサービスの概要(案)
	5分	30分	テーマ10	境田先生	個別データの管理・活用方針(案)
	5分	35分	テーマ5	川原先生	事故情報の集約方針(案)
	15分	50分	質疑応答・決議		
	10分	60分	休憩		
	大会・広報	10分	70分	テーマ9	池田(純)主査
10分		80分	テーマ13	尾崎主査	広報戦略の策定・展開(案)
10分		90分	質疑応答		

第4回作業部会のご案内(2/2)

第4回作業部会では、「大会・表彰・広報」「学内整備」「指導者」の3つのトピックをメインアジェンダとして議論する予定です

#	時間配分	累計時間	発表者		議題	
学内整備	10分	100分	テーマ12	佐野先生	AD局の役割・設置に関するガイドライン・事例集整備(案)	
	10分	110分	テーマ2	小林(勝)先生	学修機会の確保にかかる方針(案)	
	10分	120分	テーマ3	友添先生	学業基準の設定にかかる方針(案)	
	10分	130分	テーマ6	三宅先生	安全安心のガイドライン(案)	
	10分	140分	テーマ7	戸田先生	相談窓口の設置方針(案) コンプライアンスのガイドライン(案)	
	15分	155分	質疑応答			
	10分	165分	休憩			
指導者	10分	175分	テーマ1	伊坂先生	入学前からの動機付けプログラム(案)	
	10分	185分	テーマ4	藤本先生	キャリア支援プログラム(案)	
	10分	195分	テーマ8	佐藤主査	指導者向け研修制度(案)	
	10分	205分	質疑応答			
進捗	5分	210分	テーマ15	木藤参与	組織整備の進捗報告	
	5分	215分	質疑応答			
	5分	220分	スポーツ庁	事務局	第5回作業部会の案内	